報告要旨

【研究の目的】

投資家が売買のタイミングを計るため、転換点(定義した表示期間内の最大値、最小値)から転換点への価格変動における新値(新高値、新安値)の更新回数が転換点に与える要因を明らかにすることである。

【研究の意義】

マーケットが転換する新値の規則性を明らかにすることで、投資家が売買のタイミングを計る上での有効性を高めることができる。

更に、転換点を結ぶ騰落率に新値の更新回数が与える要因も明らかにすることで有効性を高めることができる。

【研究方法】

1. 定義した算出方法で価格の転換点を算定する。
2. 価格が転換点から転換点へと変動する新値を更新する累積数を算出する。
3. 新値の累積数と転換点の規則性を検証する。

【研究データ】

特性が異なる 2 つの対象指数を選定した。日経平均株価指数と為替米ドル/円である。それぞれ日足、週足、月足のデータを算出した。チャートの形状はローソク足とカギ足を用いた。

転換点から転換点の騰落率を算定し、新値の累積数との関係性も検証した。

【結論】

投資家が売買タイミングを計るため、転換点から転換点への価格変動における新値（新高値、新安値）の更新回数について有効性のある規則性を見つけ出すことは出来なかった。

データである日経平均株価指数と為替米ドル/円の日足、週足、月足それぞれ同じ習性がみられ、特段違いはなかった。

チャートの形状はローソク足とカギ足を用いたが、カギ足のほうが有効性は高かった。

本研究では有効性のあるトレードの定義として検証成功確率 70%以上を求めたがいずれもそれに達していないかった。

転換点から転換点の騰落率を求め、新値の累積数との関係性も検証したが、特段新しい発見はなかった。

【発見】

有効性が高いトレード手法であるカギ足陰陽転トレード(“オカショウ”)を発見できた。

カギ足の陰陽転時に売買する手法でかつ更新回数毎の値幅の特徴をつかむことで収益機会を高めることができる。カギ足チャートの検証では陰陽転トレードが比較的高い有効性があった。

売買ポイントがわかりやすく明示され転換点のポイントも事前に知ることができる。転換点は ATR で誰もが客観的に定義できる。期待値が高く優位性のあるトレードであることがわかった。

【課題】

ローソク足の転換点の定義のように、設定する数値次第で新値更新回数の数が大きく変わる。要はテクニカル分析全般にもいえるがどうしても恣意性が入りやすい。主観を排除しデータの根拠を示し誰にでもわかる手法を提示できるかどうかが今後の課題である。

以上